

主催：エネルギー・資源学会（JSER）「2050年に向けた日本のエネルギー需給」研究委員会
東京大学 生産技術研究所 エネルギーシステムインテグレーション（ESI）社会連携研究部門

「2050年のエネルギーと社会：そして前に進むために」 パネルディスカッション（2） 需要議論：

エネルギー供給視点で俯瞰する場合の “需要側”の注目を考える

2022.4.22

ENEOS株式会社中央技術研究所技術戦略室

エネルギー・資源学会（JSER）「2050年に向けた日本のエネルギー需給」研究委員会委員

古關 恵一

お断り：本項はエネルギー・資源学会での各種議論への話題提供を念頭に書き下ろした。
著者の所属する機関や各種委員会の見解や細部の認識を示すものではない。
当該目的での議論以外の利用において責任を負わない。

1. 今,注目されるキーワード

- ・『レジリエンスと脆弱性』
- ・『異常時・緊急時と平時』
- ・『需要と供給』

の関係性

(補足)

これまで,視点が限定されていたことへの反省と2100年の需要激変下に前に進む建設的認識がではじめている.

2. 2019- 2022年, 注目事例

- ・北海道胆振沖地震と電力網のあり方論
- ・千葉台風15号19号と回復の議論
- ・COVID-19及びパンデミックがもたらす生活変化
- ・国家安全保障*からの議論

*ウクライナやドイツが直面する事例が示す国家安全保障面の『レジリエンス』：国家エネルギー・セキュリティの論点, 歴史が示してきた教訓

示唆； 震災・台風・パンデミックなど災害と国家安全保障上の様々な事例は『レジリエンス』や『異常時・緊急時』のさらなる考慮の必要をさし示す

3. 各種研究の枠組で議論可能と思われる論題

1. 需要・供給の関係性の詳細

エネルギーシステムの規模別場合分け
が昨今求められる視点

2. 『異常時・緊急時』含む経済性の考慮

特に経済性議論での供給・販売・処理含む, 循環社会視点・意味を十全に考慮する経済性*

*“発電”あるいは“エネルギー製造”のみではない総合的コスト評価の重要

3. 各種研究の枠組で議論可能と思われる論題(続)

3.『異常時・緊急時』議論切り出しの必要

- ・経済性以外にも,導入シナリオ等において議論必要
- ・『防災』『予防的準備』のみではない戦略的な視点の必要は,隠された不経済伴う。「見える化」が課題.

…“事例”と“抽象議論”の重ね合わせが指し示す方向性でもある.